

教育委員会提出議案

第34号議案

豊島区文化財の指定について（文化財保護審議会への諮問）について
上記の議案を提出する。

令和5年7月25日

豊島区教育委員会教育長 金子智雄

（説明）

豊島区文化財保護条例第23条第1項第1号の規定による諮問を行うため、本案を提出する。

※ 第23条 審議会は、委員会の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を調査審議して、答申する。

1 文化財の指定及びその指定の解除

（資料）

別添のとおり

豊島区文化財保護審議会への諮問（文化財の指定）について

1. 根拠法令

豊島区文化財保護条例第 23 条第 1 項第 1 号による

2. 諮問事項

（1）文化財の指定

①有形文化財（建造物）

婦人之友社社屋

1 棟

3. 諮問理由

別紙「諮問書」（案）の通り

【豊島区登録文化財】（文化財指定候補物件1）

1. 名称 婦人之友社社屋
2. 員数 1棟
3. 指定種別 豊島区指定有形文化財（建造物）
4. 所在地 豊島区西池袋2-20-16
5. 所有者 株式会社婦人之友社 豊島区西池袋2-20-16
6. 指定基準 豊島区文化財登録・指定基準 第2 豊島区指定文化財
豊島区登録文化財のうち、区にとって特に重要なもの
(参考)
登録基準 豊島区文化財登録・指定基準 第1 豊島区登録文化財 1 豊島区登録有形文化財（1）建造物「ア 区の歴史又は地域的特色において重要なもの」、「イ 意匠的又は技術的に優れているもの」および「ウ 歴史的又は学術的に価値があるもの」に該当する。
7. 指定理由 本建物は、隣接する自由学園（現自由学園明日館）を創設し、その校舎の設計をフランク・ロイド・ライトに依頼した羽仁吉一・もと子夫妻が、明治36（1903）年に創業した婦人之友社の社屋で、昭和38（1963）年に創業60年を記念して、大明建設の施工で建てられた。
設計を担当した遠藤楽（1927-2003）は、ライトの弟子、遠藤新の次男で、昭和24（1949）年に遠藤新建築創作所に入社。昭和32（1957）年に渡米し、アメリカで直接ライトの指導を受けている。作品として、自由学園羽仁両先生記念図書館（昭和41（1966）年築、東久留米市）・六十周年記念講堂（昭和56（1981）年築、東久留米市）や滝野川教会（平成3（1991）年築、北区）などがあり、個人住宅・店舗建築なども多い。
この婦人之友社社屋は、令和4（2022）年9月27日に、豊島区有形文化財に登録され、同年11月より翌年3月まで、本建物の文化財的な価値を評価するため、詳細な建造物調査を実施した。また、建造物調査に先行して、遠藤楽の設計図面が保存されている遠藤現建築創作所（旧遠藤楽建築創作所）の調査も実施されており、基本構想から実施設計に至るスケッチ・図面・模型が残されていることが判明し、特に楽自筆の実施設計図面がほぼ完全な形でそろえることができた。
鉄筋コンクリート造、地上3階、地下1階、陸屋根の建物で、事務所部分・会議室部分・倉庫部分（増築部分を含む）からなる。
事務所部分は、4本のL字型柱に支えられた片持ち構造の部分と、階

段室やトイレを含む壁構造のコア部分で構成されている。会議室部分は事務所部分の西側に建つ鉄筋コンクリート造の平屋建てで、倉庫部分は、事務所部分の南に発送室で接した鉄筋コンクリート造の陸屋根となっており、昭和45（1970）に木造平屋建ての切妻屋根の部分が増築されている。

遠藤は、本建物の設計に際し、自由学園明日館講堂（昭和9（1934）年築）と、友の会友の家（昭和37（1962）年築、平成19（2007）年解体）と一体的にデザインすることを意識し、師・ライト、父・新の建築思想が随所に見られる。

たとえば、会議室部分の屋根勾配を低くし庇を広くした水平方向を強調したデザインは、明日館の全体デザインと同様である。また、事務所部分の階段ホールの天井高を抑え、L字型柱に囲まれた空間の天井を高くして、部屋に入った時の開放感を得られる演出も、明日館の中央ホールを思わせる。加えて、倉庫部分の発送室の屋根は緑青色の亜鉛引鋼板瓦葺きで明日館の屋根と酷似しているなど、ライト建築の特徴が見られる。また、増築された倉庫部分には、新が好んで使用した三枚下ろしの構造を見ることが出来る。家具や照明についても、ライト・新同様、建物に合わせてオリジナルのデザインした、照明器具・椅子・ソファ・テーブルなどは、現在も使用されている。

外部は、屋上塔屋の文字看板の撤去や、ごく一部に建具の変更も見られるが、大きな改修は実施されていない。内部についても、階段室の手摺りを設置や1階玄関のスロープ設置などのバリアフリー化、1階事務室床のOA対応化などの他、若干の動線の変更を行っているものの、基本的には建築当初の形が良好に残されている。また、応接室の照明、ロッカーや作り付けの棚、サッシ、洗面所・現像室の水回りのタイルなどは当初のものが残されている。

以上のように、婦人之友社社屋は、戦後の建築であるが、隣接する自由学園明日館を設計したライトの系譜を引く設計者によるものであり、平面構成や意匠にライトの思想・手法が継承されている建物である。また、親子で世界的建築家と師弟関係にあった設計者の建物と、師の手による建物とが隣接しており、これら一群の建物を保存する意義は大きく、婦人之友社社屋を、保存・活用すべき豊島区の特に重要な文化財として指定することが適当である。

8. 参考文献

伝統技法研究会『豊島区登録有家文化財婦人之友社社屋歴史的建造物調査報告書』（2023）

遠藤楽「婦人之友社」『建築』（1963）青銅社

遠藤楽「設計者のことば」『婦人之友』（1963）婦人之友社

遠藤楽作品集編集委員会『楽しく建てる－建築家遠藤楽作品集－』（2007）丸善株式会社



敷地周辺 婦人之友社敷地の西方向を社屋屋上より見る。道路右手が自由学園明日館、奥に明日館講堂、左手が友の会“友の家”がある。自由学園、友の会、婦人之友社の三団体がこの土地で一体となり発展してきた。



建物外観 婦人之友社社屋を南東より見る。手前は倉庫棟。3階建て部分が事務所棟。壁の多い倉庫棟と軽快な意匠の事務所棟が対比している。



建物外観 北東より見る。事務所棟はガラスと白いリシンの腰壁部分で水平を強調している。右手の茶褐色のタイル張り部分は階段室、便所などがあり、構造のコアになっている。



建物外観 婦人之友社玄関。大谷石を要所に使用し自由学園明日館との調和を計っている。



建物内観 会議室1 正面に暖炉があり、家庭の居間とも言うていい会議室。設計者の意図が空間に表現されている。



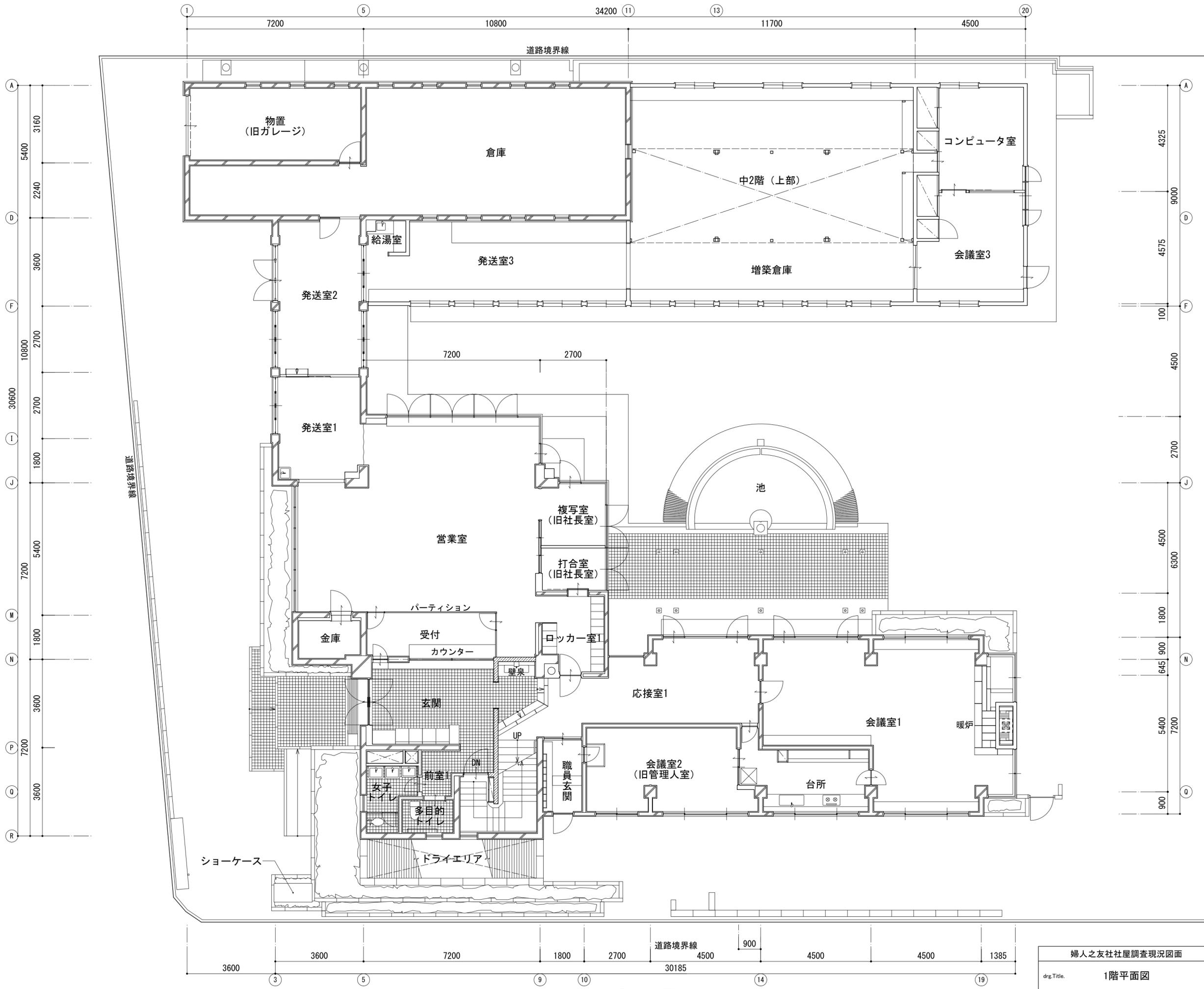
建物内観 会議室1 左手に台所があり、右手に池が見えるダイニングテーブルの会議コーナーがある。



建物内観 2階編集室 3方向が開口部で、極めて明るい。

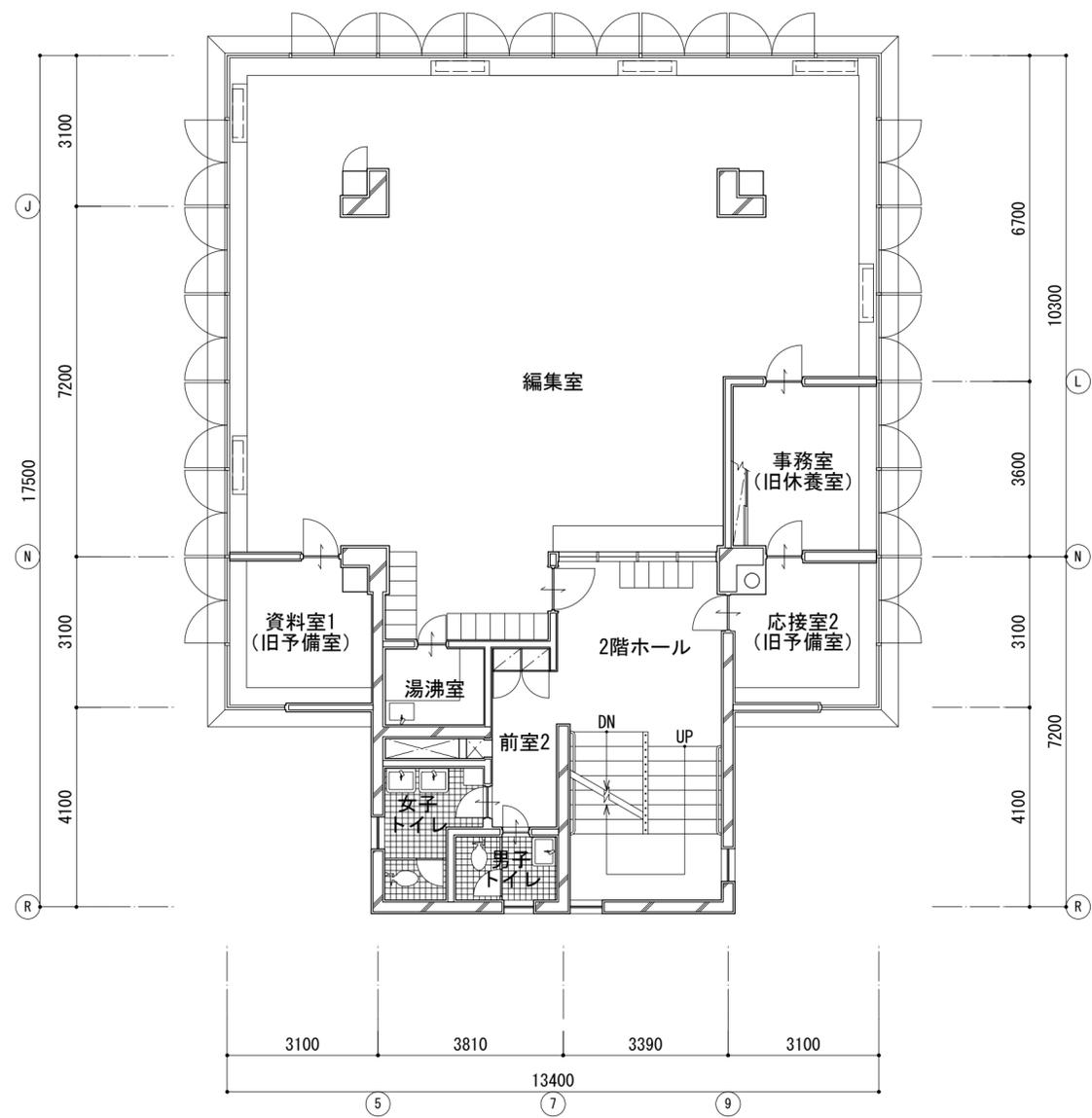


建物内観 3階会議室 空間は広く、2方向に眺望が開いており、解放的である。

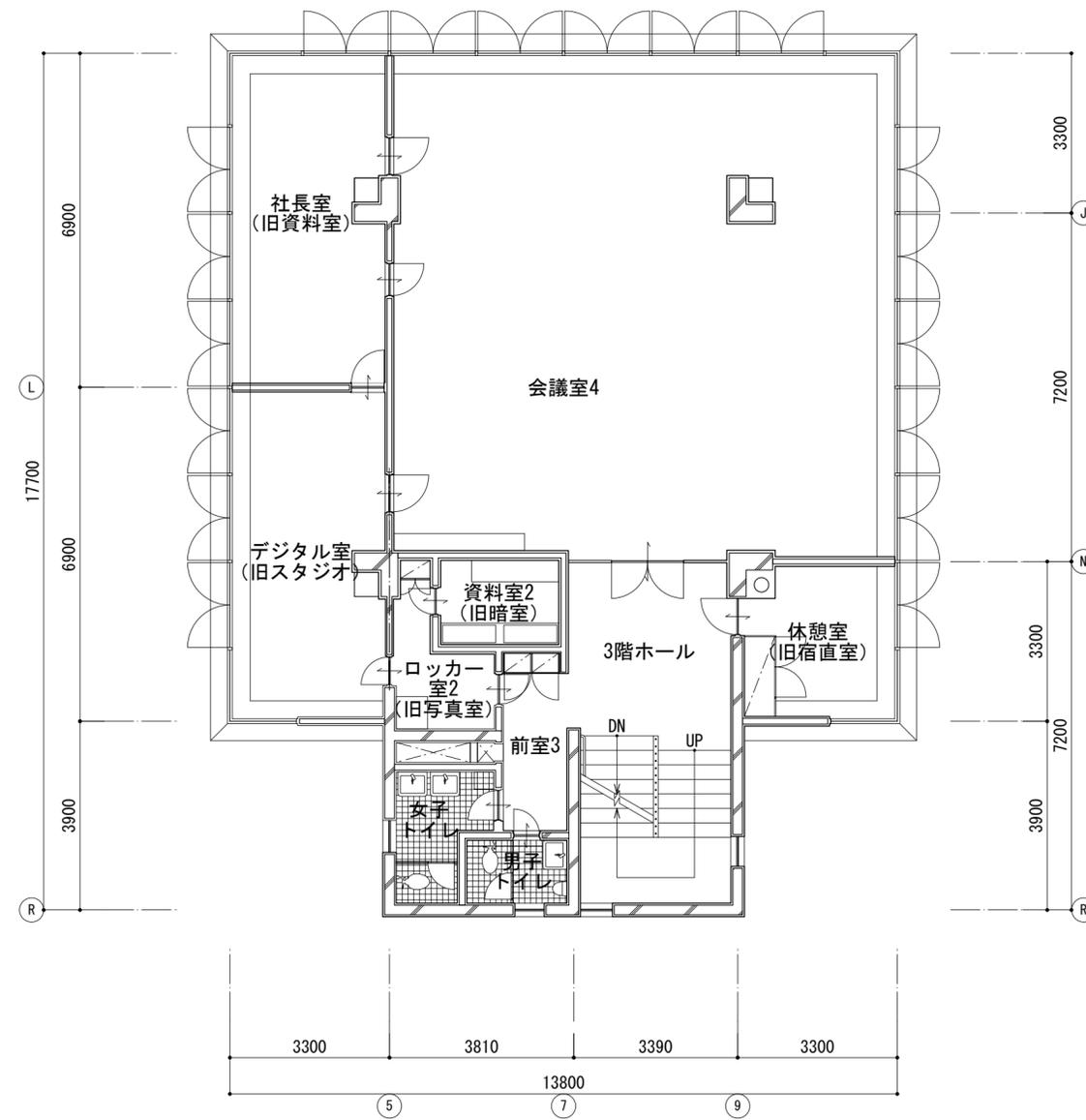


1階平面図

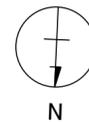
婦人之友社屋調査現況図面	Date. 2023.03.31	No. 02
1階平面図	Scale. 1:100 (A2)	
●● 協同組合 伝統技法研究会		



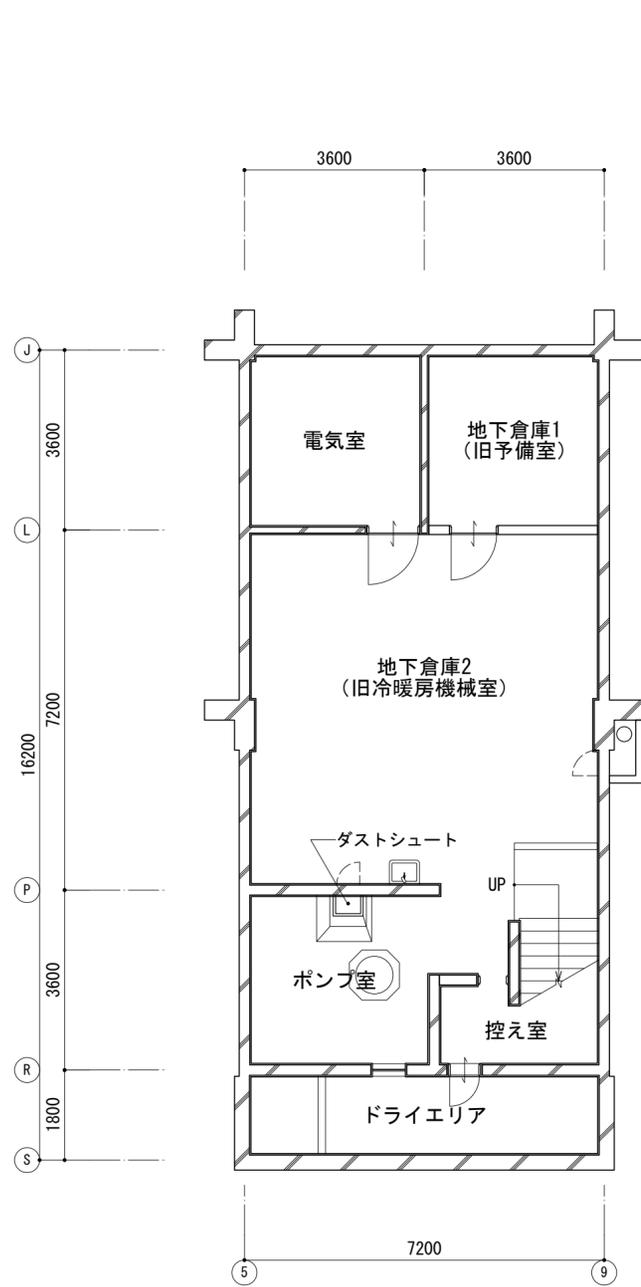
2階平面図



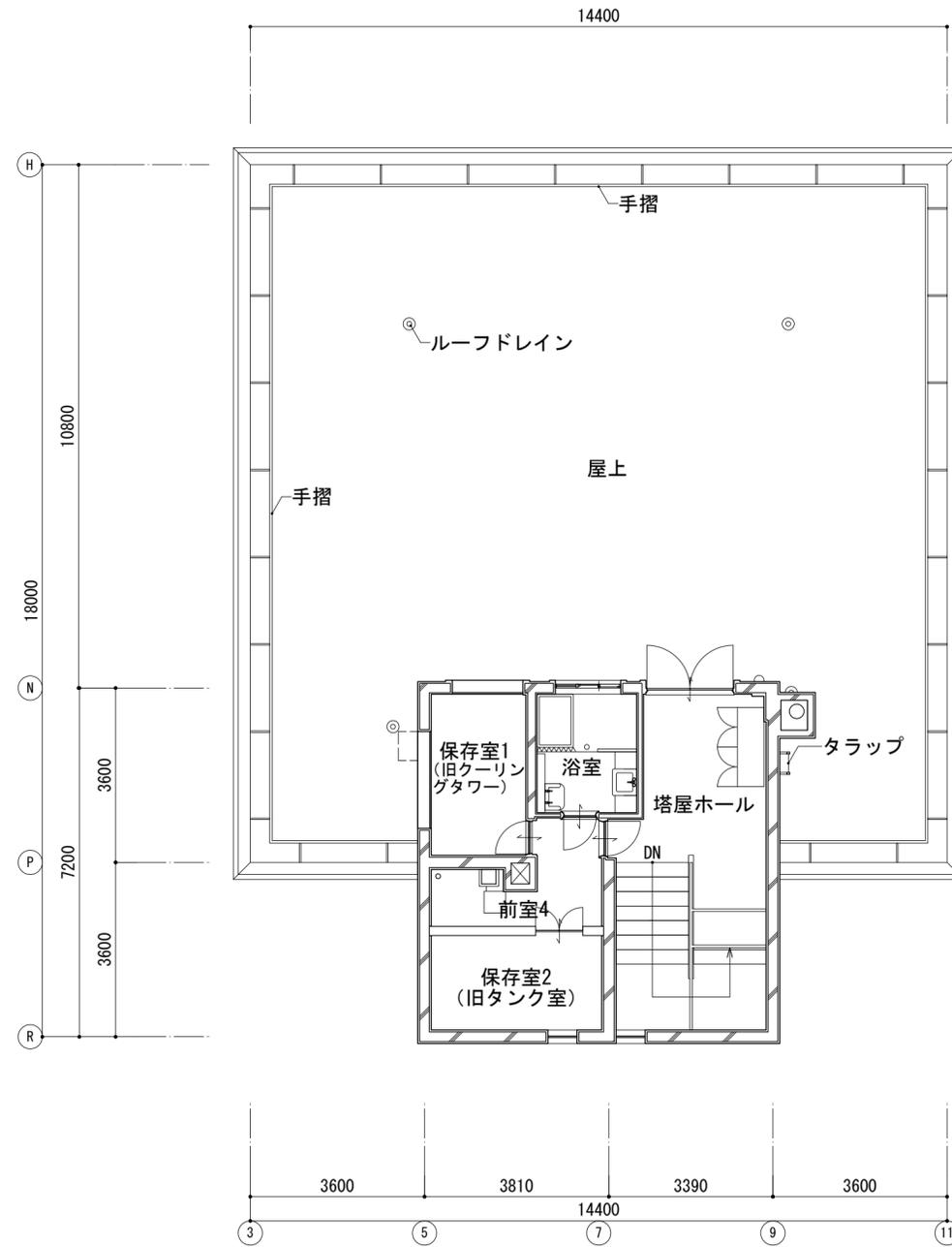
3階平面図



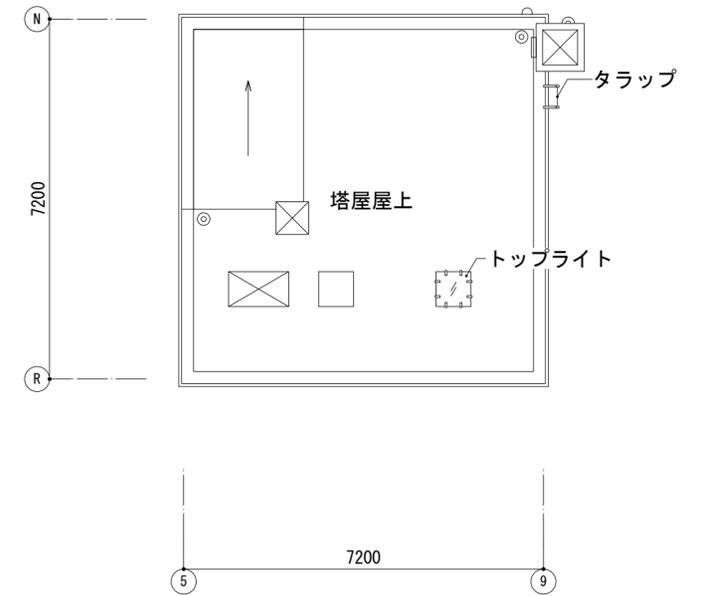
婦人之友社屋調査現況図面	Date. 2023.03.31	No. 03
2・3階平面図	Scale. 1:100(A2)	
●● 協同組合 伝統技法研究会		



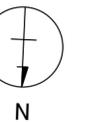
地階平面図



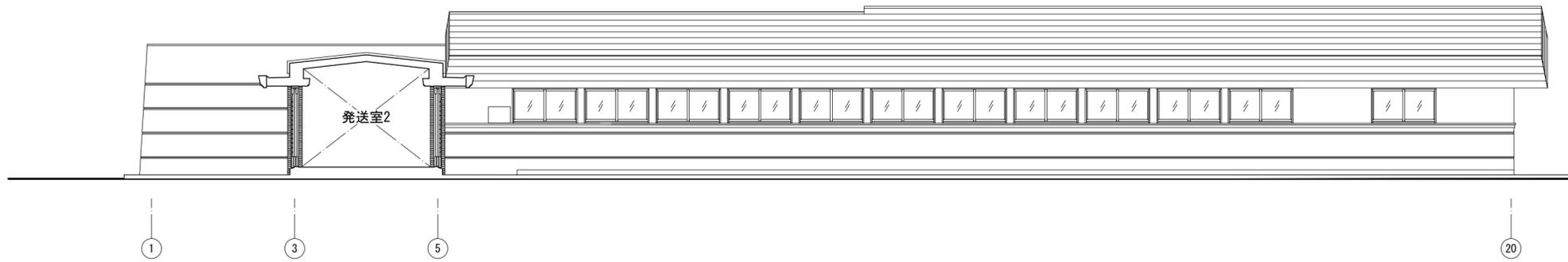
塔屋平面図



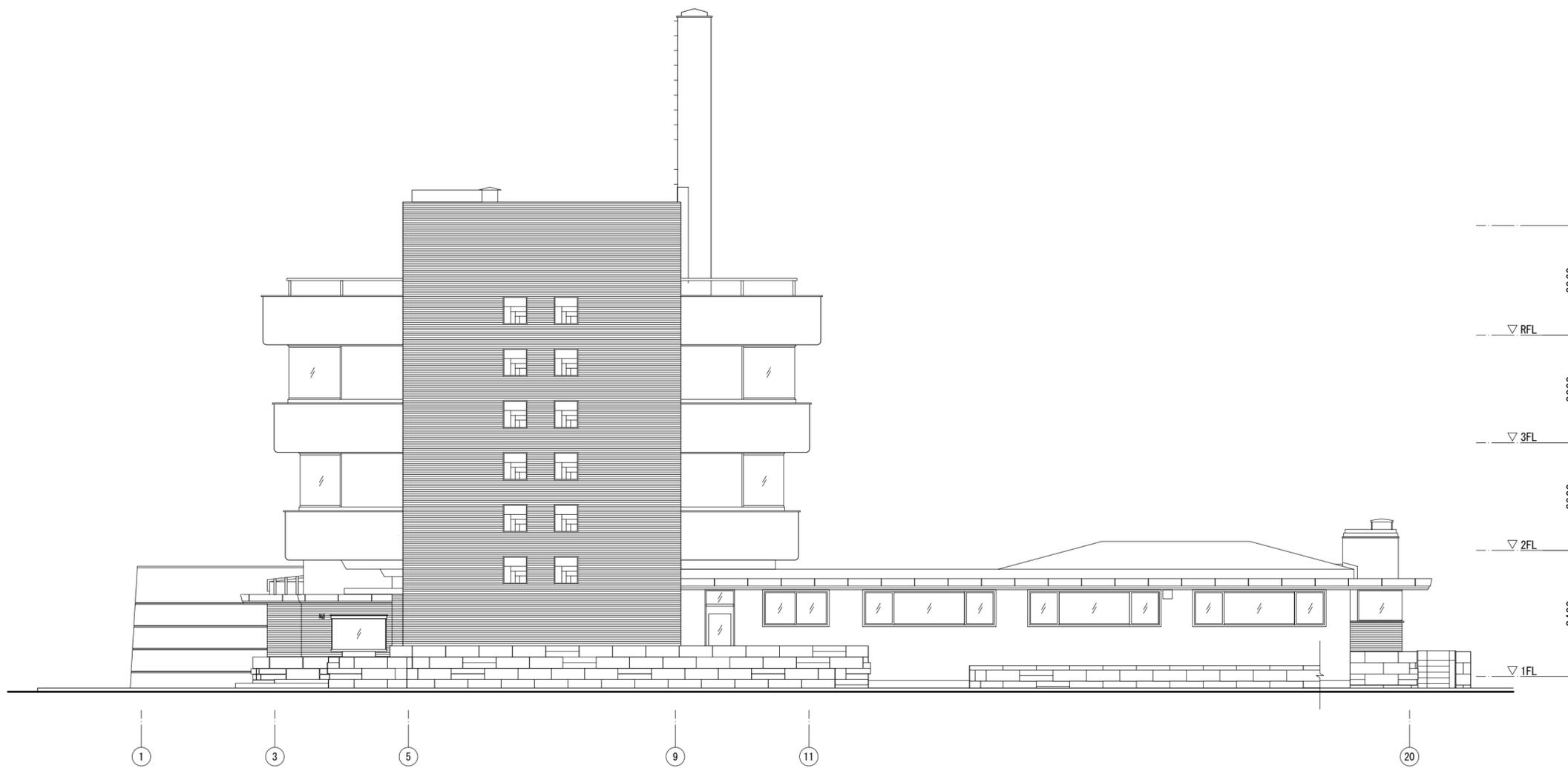
塔屋屋上平面図



婦人之友社屋調査現況図面	Date. 2023.03.31	No. 04
drg.Title. 地階・塔屋・塔屋屋上平面図	Scale. 1:100(A2)	●● 協同組合 伝統技法研究会

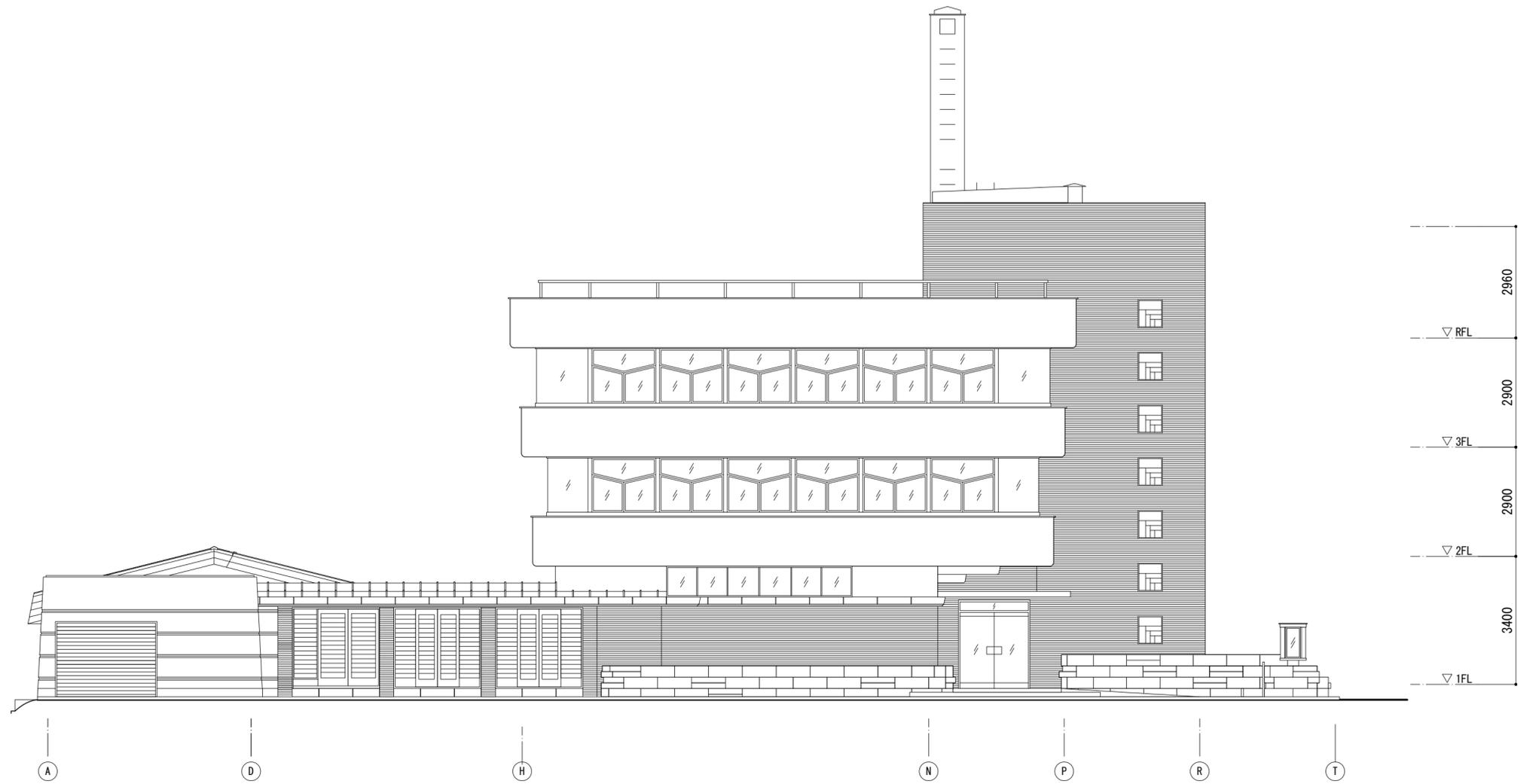


北立面图（中庭側）



北立面图

婦人之友社屋調査現況図面		Date. 2023.03.31	No. 06
drg.Title. 北・北(中庭側)立面图		Scale. 1:100(A2)	
●● 協同組合 伝統技法研究会			



東立面図

婦人之友社社屋調査現況図面		Date. 2023.03.31	No. 07
東立面図		Scale. 1:100 (A2)	
●● 協同組合 伝統技法研究会			